

## 2 学期始業式講話

おはようございます。

本日から2学期の始まりです。本来であれば先週の金曜日の30日に始業式を行う予定でしたが、本校の停電と台風10号の接近により本日に延期しました。

皆さんの夏休みはいかがだったでしょうか。今月後半まで毎日暑い日が続きました。その中で皆さんは暑さ対策をしながら部活動や勉強をやってきました。大きな事故もなく良かったと思います。

しかしながら10日ほど前の金曜日の落雷により本校の電気系統がいかれてしまいました。3日間の停電は予想以上の被害でした。それは水道が利用できないということでした。つまり電気が通らないと水道は利用できません。防災で最大の鍵は水だと言われてきましたが、電力はもっとも大きな鍵です。このためトイレの水が流れません。3日間部活動等で活動された方には大変つらい思いをさせていただきました。今は自家発電機によってどうにか稼働させています。

この停電が能登半島のような地震災害で起こったらどうでしょうか。停電ですとエアコンの利用ができません。扇風機も使えません。熱中症や気分の悪い人が出てきた時に皆さんはどうされますか。扇子やうちわを利用するしかないでしょう。トイレも水が流れません。用を足して垂れ流しになってしまいます。本校は近隣住民の方々の避難地にもなっています。340人ほどの地域住民が体育館の1、2回に避難したとして、その倍の人数の生徒は校舎にいて復旧を待つしかありません。気分の悪い体調を崩した老人は本来であれば自主防災ですので、自治体の方にお任せするしかないのですが、きっと皆さんの力を必要とすると思います。皆さんは有事の戦力だからです。

昨日1日は今から101年前に関東大震災が起こった日でした。東京・神奈川の首都を直撃した地震で10万人余りの命が失われました。その時の時刻は11時58分でした。昼時で火の利用があったため火災が多く発生しました。実際は薬品倉庫で薬品が倒れて火災になった方が規模が大きかったのですが、地震の時には火の元を消すという教訓がここから生まれました。

皆さんはご存じの東日本大震災は3月11日に起こりました。この時はみぞれまじりの雪に遭遇した地域がありました。昨日一部自治体で雨の状況下で地震が起こった時の避難訓練をしていました。それは最悪な状況下を想定してのものです。

「備えあれば憂いなし」という言葉は、まさにそうした有事の事態になった時を想定して日ごろ活動する際に戒めたものです。ボーイスカウトでは、「備えよ常に」がモットーにしていますが、それに近い言葉です。今回の停電は暑さの中でどうすべきかを考えさせられました。

さて、「備えあれば憂いなし」という言葉はこれから就職試験、さらには専門学校や大学

受験をする3年生にも言える言葉かと思います。受験に合格するには何をすべきか何をしなくてはならないか、それこそ備えるわけです。落ちたらどうしようと色々心配するので、その前に備えがあれば憂いが小さくなるわけです。

同時にこのことは勝負の世界でも同じです。試合に勝つために様々なことを想定して備え挑むわけです。これに近い意味の言葉に、「負けに不思議の負けなし」という言葉があります。勝つときは不思議な勝ちがあります。例えばずっと好投していた相手投手が突然乱れて、点がこちらにころげてきて勝った場合や、ゴールを決めてきた相手選手が接触プレーで骨折して動けなくなり戦力ダウンしてこちらに勝ちが転がってきた例がいくつかあります。

しかし、負ける時は必ず何らかの理由があります。だから「負けに不思議の負けなし」という言葉が生まれました。これは江戸時代の剣豪の松浦静山の言った言葉といいますが、言いえて妙です。幾多の勝負で静山は学んだと思います。

2学期早々停電のアクシデントで、今もズーム配信はできているものの教室の灯りは消さざるをえません。早く復旧することを望みますが、防災を考える貴重な体験だと思ってください。そして「備えあれば憂いなし」の精神でこの2学期を乗り越えていきたいと思います。今日明日からの集中研修を経て、楽しい充実した学期としましょう。以上で校長講話とします。

(令和6年9月2日、始業式)